

★ 採用Q & A ★



Q1：警察官はどのような仕事をしていますか？危険ではありませんか？

A1：警察官は、県民が安全で安心して暮らせる熊本の実現のため、犯罪の予防や捜査、交通の取締りなど主に現場での業務を行っています。

また、刃物などの危険物を所持した人物への対応に備え、日頃から柔道、剣道、逮捕術等の訓練や、あらゆるケースを想定した実践的な訓練も行っています。



Q2：警察官になるために必要な資格や免許などはありますか？

A2：警察官になるために特別な資格や免許などは必要ありません。警察業務に必要な法律等の知識については、警察学校で学ぶことができます。ただし、採用試験に合格してから警察学校に入校するまでに、警察官には普通自動車と普通自動二輪車の運転免許(どちらもAT限定不可)を、警察行政職員には普通自動車の運転免許(AT限定可)の取得をお願いしています。

Q3：警察行政職員はどのような仕事をしていますか？

A3：警察行政職員は、警察業務の中でも、給与や勤務の管理、予算編成など、主に行政面の業務を行っています。配属先によっては、犯罪現場で採取した資料の鑑定や信号機の管理等に従事することもあります。



熊本県警察では、警察官と警察行政職員が一丸となり、県民の安全・安心を守っています。

Q4：女性でも活躍できる職場ですか？

A4：警察というと男性社会というイメージを持つ方もいると思いますが、女性や子どもが関わる事案など、女性職員の対応が求められる場面は増えています。例えば、女性被害者から事情聴取するときに、女性警察官が対応することで、細やかな心遣いにより場が和んだり、被害者が安心して話すことができたりすることもあります。

熊本県警察では、女性の活躍の場の拡大や女性が働きやすい職場づくりを積極的に推進しています。

Q5：女性が安心して働ける環境ですか？

A5：現在、熊本県警察では多くの女性職員が、その特性をいかながら仕事をしています。

結婚、妊娠、出産などのライフプランに合わせて、結婚休暇、産前・産後休暇、育児休業などの制度を利用することができます。

育児休業から復帰する際には研修が行われるため、休業によるブランクや不安を解消して仕事に復帰することができます。また、育児休業から復帰後も、子どもの保育園の送迎や看護のための休暇制度などを利用することができ、子育てと両立しながら仕事を続けることができます。



Q6：警察学校を卒業した警察官が、最初に交番勤務になるのはなぜですか？

A6：交番は、地域の安全・安心の拠点となる場所です。業務内容は幅広く、地域のパトロールや巡回連絡、地理教示、事件・事故の初動対応など、警察官としての基本である様々な事案に対応することになります。

交番での勤務経験を通して、警察官として必要な知識や実務能力を高めていきます。



Q7：配属部署や勤務地を希望することはできますか？

A7：職員の人事異動については、定期的に希望調査が実施され、本人の希望や職務適性、能力などを考慮した上で配属先が決定します。各部署ごとに専門的知識や能力を高めるための研修制度も充実しており、例えば白バイ隊員を目指すのであれば運転技能などを身につけるための研修があります。

勤務地については、原則、熊本県内ですが、本人の希望や能力によっては、警察庁や他都道府県警察等で勤務することもあります。

また、県内各所に通勤の利便性や家族構成等の生活環境に配慮した職員住宅があります。世帯用住宅のほか、熊本市にはワンルームの独身寮もあり、快適な生活ができるよう改善を図っています。



Q8：昇任制度はどのようになっていますか？

A8：警察の昇任制度は、日頃の努力や勤務実績の評価、昇任試験（審査）に基づく実力本位のものです。学歴や年齢に関係なく、努力をした人が報われ、更に上位階級で能力を発揮できる組織です。

Q9：警察官になると私生活まで制約されるのでしょうか？

A9：警察職員は、非常時等に備えるため、旅行する場合等に職場への届出や承認を受けることもありますが、多くの職員が、休日を利用して旅行や趣味を楽しんでいます。

Q10：休日・休暇はどうなっていますか？

A10：週休日や祝日、年末年始の休日等のほか、年次有給休暇や夏季休暇などの各種休暇制度があり、熊本県警察では、積極的な休暇の取得を推進しています。事件・事故の対応で週休日等に出勤することもあります。時間外勤務手当等が支給されたり、週休を振り替えることができます。

Q11：警察学校の授業や訓練は厳しいと聞きましたがついていけますか？

A11：警察学校での訓練や生活は厳しいとよく言われますが、この厳しさは、全て県民の安全・安心を守ることに繋がっています。皆さんの熱い思い、そして、同じ志を持った同期生との絆で警察学校の訓練はきっと乗り越えられます。



Q12：体力面で不安がありますが、警察官としてやっていけますか？

A12：警察学校では、警察官として職務に必要な様々な訓練を行うため、体力は徐々についていきます。
警察学校を卒業するころにはほとんどの学生の体力が向上しています。



Q13：柔道、剣道の経験がありませんが、大丈夫でしょうか？

A13：警察学校では、授業で柔道、剣道のどちらかを選択することになりますが、学生の大半は初心者です。教官が、礼儀作法などの基本動作から熱意を持って教えてくれますので、心配はいりません。



Q14：警察学校では、外出、外泊はできますか？

A14：警察学校に入校して最初の1か月間は外出等の制限がありますが、その後は週末に外出、外泊ができるようになるため、実家に帰省したり、友人と会ったりするなど、休日を楽しむことができます。

Q15：警察学校の教官はどんな人たちですか？

A15：警察学校の教官は、生活安全警察、刑事警察、交通警察、警備警察、柔道・剣道など、各分野で活躍している警察官ばかりです。教官は、将来一緒に仕事をする熊本県警察の仲間として、皆さんに愛情を込めて知識や技能を惜しみなく伝えます。警察学校に入校した当初は、慣れない生活で厳しいと感じるかもしれませんが、警察学校を卒業するころには、教官も学生も別れを惜しみ、涙を流すこともあります。



Q16：警察学校の食事はおいしいですか？

A16：警察学校の食事は、校内にある調理場で栄養バランスを考慮して作られています。ボリュームもさることながら、警察学校の学生からは「美味しい」と評判です。



Q17：警察行政職員は警察学校でどのようなことを学びますか？

A17：警察行政職員として採用されると、学校で1か月間の採用時教養を受けます。体育の授業もありますが、基本的に業務に関連した座学の授業になりますので、体力に自信がない方でも心配いりません。警察官同様、寮生活を送りながら、警察職員として必要な知識を身に付け、卒業後は警察本部や警察署に配属となります。

Q18：第1次試験に備えて、どのような勉強をすればいいですか？

A18：勉強方法は様々ありますが、合格者は、市販の問題集を活用したり、大学や高校の公務員講座を利用したりと自分なりに工夫しながら勉強をしたようです。
熊本県ホームページ「熊本県職員採用ガイド」には、過去に出題された問題が掲載されていますので、活用してみてください。



Q19：県外出身者や民間企業等からの転職者は、採用試験で不利になりませんか？

A19：熊本県警察では、変化する社会情勢に対応できるよう、多種多様な人材を求めています。
実際に、多くの県外出身者や民間企業からの転職者が働いていますので、安心して受験してください。
また、初任給には職歴に応じて加算があります。

Q20：資格加点とはなんですか？

A20：一定の資格をお持ちの方は、資格に応じて、第1次試験の点数に10点または20点の加点を行うことができます。語学、武道のほか、情報処理技術者試験が資格加点の対象となります。なお、加点される資格は、試験区分によって異なりますので、詳しくは各試験案内をご確認ください。

Q21：第1次試験の合格率はどのくらいですか？

A21：令和7年度の第1次試験の合格率は、警察官全体で78.2%、警察行政全体で65.5%となっています。

Q22：就職説明会などは行っていますか？

A22：熊本県警察では、警察の魅力を発信し、業務に対する疑問や不安を解消してもらうため、採用担当者等による就職説明会や業務体験会を実施しています。
実施日時や実施場所については、熊本県警察ホームページやSNSなどで随時ご案内します。